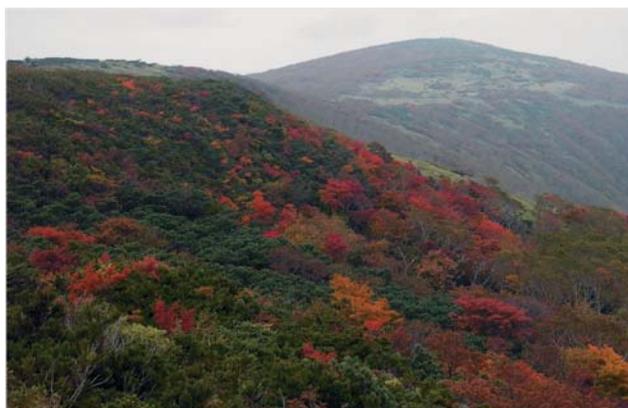


みどりのの東北

発行日/平成22年 3 月
発行/東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16
TEL.018(836)2192

ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



森林の持つ多面的機能の発揮に向け (詳細は2頁で紹介)

トピック

特集

「多様な森林整備の推進」

計画課

「平成21年度国有林モニター会議を開催」

企画調整室

美しい森林づくり

「遊々の森における体験学習と
森づくりの集いについて～未来へつなぐ森～」

由利森林管理署

我が署の隠れた名所

「太良峡」

藤里森林センター



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

特集コーナー

多様な森林整備の推進

計 画 課



東北森林管理局管内（福島県を除く東北五県）の土地面積に占める森林面積の割合は七十一％（全国平均六十六％）で、その内訳は国有林二百九万七千ha、国有林百六十五万haとなっています。

管内の国有林には、白神山地区及び八甲田山系から蔵王山系に至る奥羽山脈沿いや月山から朝日、飯豊連峰にかけて、さらには森吉山、鳥海山、北上山地周辺にブナ、ミズナラなど冷温帯の自然植生を代表する天然広葉樹林が分布しています。

また、日本三大美林に数えられる青森ヒバ林が津軽、下北半島を中心に、天然秋田スギ林が秋田県北部を中心にそれぞれ分布しています。

近年、森林に対する国民の期待や要請が、地球温暖化防止、生物多様性の保全、森林環境教育や文化の継承への貢献等さらに多様化

しており、これらの期待にこたえるべく当局では、森林の持つ多面的機能の発揮に向け多様な森林整備に取り組んでいます。

具体的には、水源のかん養や山地災害の防止等公益的機能の維持増進を図るため、百年程度の長い周期で伐採・植林を繰り返す長伐期施業や、樹種、樹齢、樹高等が異なる樹木で構成される森林を造成する育成複層林施業等に取り組んでいます。また、地球温暖化防止対策として、間伐を主体とした積極的な森林整備を推進することとしています。更に、野生動物の生息に配慮した広葉樹と針葉樹の混交林やイヌワシ等の採餌環境を確保するため列状間伐を実施することとしています。

ここでは、来年度から新しい森林計画の下で管理経営していく三八上北（青森県）、大槌・気仙川（岩手県）、雄物川（秋田県）最上

村山（山形県）の四森林計画区における多様な森林整備の推進についての一部を紹介します。

一 三八上北森林計画区

青森県の東部に位置し、スギを主体とする人工林や、ヒバやブナなどの天然林からなっており、地域の木材産業の振興に寄与しているほか、計画区の西部に広がる八甲田山周辺は登山など森林レクリエーションの場として多くの方々にご利用されています。また、貴重な自然環境が残る奥入瀬渓流周辺は、その美しい森林景観を目的に全国から多くの観光客が訪れており、森林景観をより親しみやすいものとするため国道バイパス周辺の人工林を対象に間伐等の実施による針広混交林化を推進します。



奥入瀬渓流周辺の針広混交林化

二 大槌・気仙川森林計画区

岩手県の南東部に位置し、アカマツやスギを主とする人工林や、ナラやブナを主とする天然林からなっており、五葉山周辺の山岳林を「五葉山植物群落保護林」に指定するなど貴重な植物等の保護管理に努めています。当該計画区は、多くの貴重な動植物の生息・生育地となっており、中でも希少猛禽類であるイヌワシの全国有数の生息地となっています。森林整備の際には、針広混交林化の推進や採餌環境の整備など生息環境に配慮した施業方法を取り入れ、生物多様性の保存に努めます。



森林を飛翔するイヌワシ

三 雄物川森林計画区

秋田県の南部に位置し、スギ、カラマツを主とする豊かな人工林資源を有しているほか、ブナを主体とする天然林が広がり、特に奥羽山脈一帯は優れた自然環境を有しています。当計画区特有の森林生態系や、地域を代表する天然スギ、北限のユキツバキなど貴重な植物を保護するための保護林を数多く設定しており、それぞれの設定目的に応じて適切な保護管理に努めます。



栗駒山・柘ヶ森周辺森林生態系保護地域

四 最上村山森林計画区

山形県の中央部から北東部に位置し、スギ・カラマツを主とする



遊々の森「妙見塾内林自然の森」

人工林やブナを主体とする天然林が広がり、特に朝日山地一帯は優れた自然環境を有していることから「朝日山地森林生態系保護地域」を設定し原生的な自然環境を維持・保全します。また、当計画区は、学校、地方公共団体、NPOなどと森林管理署とが協定を結ぶことにより、子どもたちがさまざまな体験活動や学習活動を行うフィールドを提供する「遊々の森」を五箇所設定しており、必要な助言や情報提供を行うなど森林環境教育を積極的に支援・推進することとしています。

東北森林管理局では、国民の意見を反映した国民のための森林づくりの一環として、国有林モニター制度を設け、取組を進めています。

今年度は、福島県を除く東北五県に在住の四十八名の方に国有林モニターに就任していただき、東北森林管理局が行う施策について、現地見学会やアンケートなどを通じ、ご意見をいただきました。

こうした取組の一環として、三月五日（金）、東北森林管理局において、二十名のモニターの皆様にご出席を頂き、国有林モニター会議を開催しました。

会議では、東北森林管理局から今年度の取組を説明した後、意見交換に移り、東北森林管理局の取組については、

- ・山形県ではナラ枯れ被害が多い、どうすれば防げるのか
- ・自然公園の管理に関しては、環

特集コーナー

平成二十一年度国有林 モニター会議を開催

企画調整室



境省との連携が重要である

- ・森林環境教育は小学校以外にも広く取り組んでもらいたい
- ・間伐材を利用したバイオマス発電をしている会社があり、それらに対する木材の販売は考えているのか

などのご意見を頂きました。これに対して東北森林管理局か



らは、

- ・ナラ枯れについては、山形県との協同で合成フェロモン（誘引剤）を用いたカシノナガキイムシの大量捕殺手法の確立に取り組んでいる
- ・環境省との連携については、環境省とは同じ方向を向いて連携を積極的に進めていきたい
- ・森林環境教育については、親子森林教室や今年八月に開催する子どもサミットの取組など、様々な場を使って取り組んでいきたい
- ・バイオマス発電については、木材として利用できない根元部分や先端部分などを有効活用し、積極的に対応していきたい

との説明を行いました。

また、

- ・集材材ラミナの生産とは何か
- ・治山事業のセルダムとはどのようなダムなのか

などの質問が出されて、それぞれ説明を行いました。

モニター活動については、

- ・来年度のモニターには、早い時期に局の取組を説明した方が理解しやすいのではないかと
- ・現地見学会で森林に対する興味が高まり、今後森林に関わっていききたい

・森林の多面的機能については、一般の人はまだまだ理解していないことがわかった、もっと広くPRしてもらいたい

・東北森林管理局の安心・安全の確保に向けた取組がわかり良い経験になった

などのご感想を頂きました。

東北森林管理局では、皆様の貴重なご意見を業務に反映していきたいよう検討を進めて参ります。



国有林モニターの皆さま

一年間大変ありがとうございました。今後とも東北森林管理局の取組を見守っていただき、ご理解・ご協力をいただければ幸いです。

○モニターアンケート結果概要

今年度十月に実施したモニターアンケート結果についてお知らせします。

（東北森林管理局ホームページについて）

東北森林管理局が行う様々な取組をホームページで紹介しており、その充実を図るためにアンケートを行いました。アンケート項目の中で、今年度四月にホームページをリニューアルしたことについては、以前のホームページと比べて「全体的に良くなった」三十二%、「情報がしつかりと整理されている」三十二%、「ホームページの画面が見やすくなった」三十二%など、ホームページは良くなったという意見を多くいただきました。また、「森林再生に向けた具体的な事例を掲載」などのご提案をいただきました。

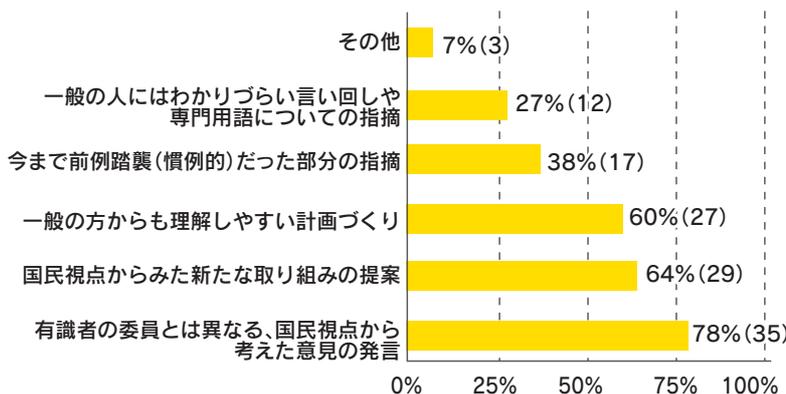
（歩道の安全確保について）

今後の歩道管理のあり方を検討するためご意見をいただきました。ブナを危険木として処理することについては、「ブナを危険木として適正に処理する場合であっても、関係団体、地域住民の意見も踏まえた方がよい」五十八%、「安全確保を最優先に危険木として処理した方がよい」二十%との意見が多い結果となりました。

（委員の公募の運用について）

今年度、「森林計画の策定等に関する検討会」の委員を一般から募集し、その運用について、ご意見をいただきました。公募委員に

期待されることについては、「有識者の委員と異なる、国民視点から考えた意見の発言」七十八%、「国民視点からみた新たな取り組みの提案」六十四%、「一般の方からも理解しやすい計画づくり六十%などが多く、国民視点での計画づくりが期待されている結果となりました。」



公募委員に期待されること

今後、モニターアンケートの結果やご意見を参考にしながら、業務の改善を進めて参ります。

遊々の森における体験学習と森林づくりの集いについて

～未来へつなぐ森～

由利森林管理署

平成二十一年十月二十二日(木)
 当署水林国有林内の「出会い・ふれあいの森」において由利本荘市立鶴舞小学校の五年生八十五名を対象に遊々の森を活用した森林再生植樹会を開催しました。
 この植樹会は、平成十七年十一月一日に由利本荘市教育委員会と当署との間で、遊々の森「未来へつなぐ森」の協定を交わした事を契機に、国有林をフィールドとし



悪戦苦闘しながらも丁寧に植えました

て、小学生が自然に触れ親しみながら「未来へつなぐ森」づくりを進めることを目的として行っているもので、当署と森林ボランティアが連携しながら今日まで継続して開催しています。
 今回の会場となった水林国有林をはじめとする由利沿岸一帯の森林は、十年ほど前から松くい虫被害の拡大によって衰退したため、森林の再生が国有林及び地域の大きな課題となっています。
 当日は、署長及び校長先生からの挨拶に続き、署の担当者から植樹方法についての説明があり、その後、各人二人一組となってミズナラやケヤキなど合計三百本の植樹に挑戦しました。生徒達は、職員やボランティア団体からの参加者よりアドバイスを受け、少し重たいスコップに慣れない手つきで悪戦苦闘しながらも、苗木を一本一本丁寧に植えていました。



生徒代表による「お礼の言葉」

植樹終了後には、記念標柱の設置や記念撮影を行い、署長から生徒代表へ記念品の本（表題「森林とわたしたち」）を贈呈し、生徒代表による「お礼の言葉」では、「今日私たちが植えた苗木が二十年、三十年後大木となって、地球の環境が守られていくことを願っています。大人になつたらこの木がどうなっているのか見に来たいと思つていきます。貴重な体験の場を作つていただきありがとうございます。ありがとうございました。」との感想を頂きました。

帰りには、職員の指導で万華鏡の中に近くの草花などを入れて観察する遊びを教えたところ、生徒達は見える模様に驚いたり、満面の笑みを浮かべていました。
 また、十月二十九日(木)には



次代を担う子供たちによる「未来へつなぐ森」づくり

「森林づくりの集い」を開催しました。
 この取り組みは、市内のボランティア団体で構成する実行委員会と企画・開催したもので、市立石沢小学校五年生や市内の福祉施設等の団体、一般公募による地域住民の方々の参加を得て開催されました。
 参加者は、当署職員の指導の下、○・二haの国有林にケヤキの苗木など六百本を植樹し、最後に足でしっかりと土を踏みしめて苗木が動かないのを確かめていました。
 当署では、豊かな自然環境の中での体験学習をはじめとする様々な活動を通じて、次代を担う子供達に、森林と人間との関係を少しでも理解してもらうために、また、多くの地域の皆さんに森林づくりの体験をしていただくため、今後ともこのような取り組みを継続していきたいと考えています。

【森のお話】
…コラム…

ヒバの育種への取り組み

〜優良種苗の早期供給のために〜

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場

星 比呂志

一月号、二月号の本コラムでは、当場が関係機関と連携して取り組んでいる、ヒバの樹下植栽試験地やジベリンペーストによる着花促進について紹介させていただきました。今回は、これらを含めた、ヒバの育種への取り組みについて紹介したいと思います。

ヒバの造林面積は、昭和の時代にはそれほどではありませんでした、平成になってから急激に増加しています。特に青森県では、平成十年度以降は、樹下植栽も含めた造林面積が毎年二百ha前後で推移しています。これに伴って苗木の需要も急増し、ここ数年は毎年三十五万本程度の需要があります。

苗木生産は、従来山引き苗や山取り種子により行われてきました。しかし、この方法では、毎年良い品質の苗木を大量に生産するのは困難です。また、山取り苗による苗畑での漏脂病感染の問題も懸念されます。このことから、採種園による効率的な優良種苗の供給が早急に求められ

るようになりました。このためには、図-1に示したような事業の流れを、個々の課題を解決しながら効率的に整備していくことが必要です。

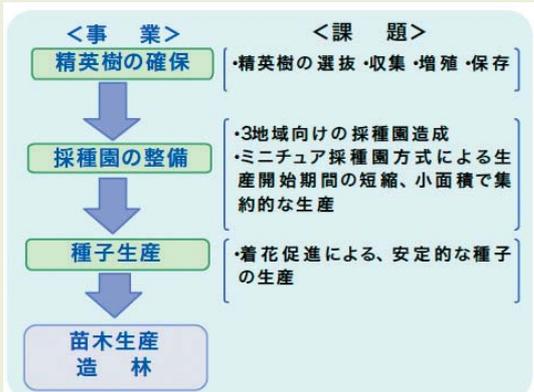


図-1 優良種苗供給のための事業の流れと解決すべき課題

このため、東北育種場では、関係機関と連携して①採種園の構成木となる精英樹の追加選抜、②精英樹の確保と採種園造成のための増殖技術の開発、③着花促進技術の開発等に取り組んできました。

精英樹の追加選抜は、東北森林管理局、青森県と連携・協力して、平成十五年度から行いました。津軽・青森・下北の三地域向けにそれぞれ採種園を造成するため、これに十分な数の精英樹を選抜することにしました。選抜の基準は、成長においては周囲の個体よりも格段に優れており、幹曲がり・ねじれが無いかほとんど無く、漏脂病などの被害を受けていないこととしました。

可能な限り短期間にということで、三年間で六十五本の精英樹を追加選抜しました(写真-1)。内訳は、津軽地域二十八本、青森・三八上北地域二十五本、下北地域十二本で、すでに選抜されていた精英樹とあわせて、各地域三十本前後となり、採種園構成本数を満たす数となりました。



写真-1 精英樹青森122号 樹高29m、胸高直径58cm

選抜の翌年から並行して保存のためのさし木増殖を開始しましたが、採種時期等の問題により予想以上に発根率が低かったため、春や夏に採種しても接ぎ木が可能な方法を工夫して増殖を行いました(写真-2)。

これにより、現在ほぼすべての精英樹をさし木または接ぎ木苗木で確保しています。

また、確実な種子生産のためには着花促進技術の改良が必要であることから、青森県等と連携して、ジベリンペーストによる着花促進技術の開発を行いました(二月号で紹介)。

また、公共事業等における複層林の樹下植栽用の苗木の需要も急増(青森県では年間約二十万本)していることから、複層林施業等に適した品種の選抜手法の開発についても、大学、民間企業と連携・協力しながら取り組んでいます(二月号で紹介)。

以上の取り組みと関係機関が進めている取り組みにより、効率的な優良種苗の供給のための材料と技術は整いつつあり、今年度、はじめて青森県のミニチュア採種園から、少量ですが種子が収穫できました。今後は、引き続き各機関と連携し、課題を克服しながら、効率的な優良種苗の供給に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。



写真-2 ミスト(噴霧灌水)温室を利用したつぎ木



岩手南部森林管理署

新庁舎完成

平成二十二年二月二十六日（金）、岩手南部森林管理署新庁舎の披露式を地元関係者外四十名の出席のもと開催しました。

当署は明治十九年「岩手大林区署水沢派出所」として開設されて以来幾多の変遷を経て現在に至っています。

旧庁舎は昭和三十五年に建造されたもので、長年当地域の国有林の管理経営の重要拠点としてその重責を果たしてきました。

新庁舎は木造一部二階建て延床面積は四百九十八・四㎡、一階は事務室、署長室、二階は会議室、

書庫等となっており、設計に当たっては「地球温暖化防止対策推進法」に基づく省エネ設計とし、「デザインは耐震強度を優先し、重厚ななかに、ピロティ（二階部分の、柱だけで構成された空間）やパーゴラ風デザインを取り入れて、軽快感や安らぎを演出しています。

使用木材は全て国産間伐材、合法性、持続可能性が証明されたものを使用しており、土台は青森ヒバ、柱はスギ、青森ヒバ、梁にはカラマツ大断面構造集成材、その他の構造材及び化粧材用にはスギ、青森ヒバ、アカマツ、クリ、ナラ、タモを使用するなど、木のぬくもりをふんだんに感じさせています。

また署長室には、低炭素化・省エネルギー推進のためペレットストーブを設置しています。



木の温もりをふんだんに感じさせる新庁舎

披露式に出席した局長からは「新庁舎は、機能的で快適なデザインが採用され、来訪者の方々に心地よく過ごしていただける。我々職員一同、新庁舎の完成を機に一層気持ちを引き締めて、能率的な業務運営に努め、多様で健全な森林の整備と林業・木材産業の再生に専念して参る考えである。」と挨拶がありました。

米代東部森林管理署上小阿仁支署

森林ガイド事業「森吉山樹氷観賞と温泉浴」

二月四日（木）、北秋田市の「森吉山樹氷平」において、森林ガイド事業「森吉山樹氷鑑賞と温泉浴」を実施しました。

当日は県内各地から応募した九名の参加があり、開会式の後、阿仁スキー場のゴンドラに乗り、雪に覆われた冬のブナ林を眼下に見ながら約二十分で山頂駅へ到着しました。

最初に樹氷総合案内所で、当支署職員の樹氷に関する説明やペトボトルを利用した過冷却水の実験の体験などにより樹氷のでき方を勉強しました。

その後、悪天候の中でしたが全参加者がスノーシューを履き、五分程度歩いて「アオモリトドマツの樹氷群」が広がる標高約千二百mの樹氷平に到着しました。参加者は樹氷群の頂上より下りながら樹氷平を散策しましたが、当日は新雪が四十cm以上積もっているうえに初めてスノーシューを履いた参加者も多く、歩行に四苦八苦しながらもパウダースノーと間近に見る樹氷を楽しみ、全員無事に下山しました。

樹氷鑑賞は、悪天候の中の実施となったことから、森吉山のもう一つの見所である「三百六十度の大パノラマ」を体験することができませんでしたので、「是非、「樹氷まつり」が終わる三月十四日までもう一度足を運んで「すばらしい景色」を見て欲しい」とお願いしました。

レストハウスで昼食をとった後、クウインス森吉温泉に移動し、参加者全員が温泉で冷



悪天候の中職員の説明を受ける参加者

えた体を温めてから家路につきました。

参加者からは、「こんな雪の中を初めて歩いた」、「初めて本物の樹水を見て良かった」などの感想があり、支署としては今後いろいろなイベントを計画していきたいと考えています。

米代西部森林管理署

フォレストスター連絡会議を開催

二月二十三日（火）、秋田県フォレストスター連絡会議開催要領に基づき、山本地区フォレストスター連絡会議を開催しました。

この会議は、森林・林業の普及活動に関する連絡調整や地域林業の活性化を図ることを目的に、森林管理署と地域振興局が年度毎に持ち回りで実施することとしており、今年度は当署が担当して開催しました。

会議に先立ち、署長より「森林・林業再生プランに基づき新たな林業政策が求められている。国有林のみならず森林の多面的機能の持続的発揮と木材の安定供給、木材利用の拡大に向けて国・県が

相互に連携して取組を進めていきたい。」との挨拶がありました。

山本地区振興局からは、宮崎農林部長をはじめ森づくり推進課から課長外五名の出席があり、森林管理署からは、首席森林官二名を含む当署六名と藤里森林センター所長補佐が出席し、お互いの事業の実施状況や普及活動の情報などについての報告と意見交換を行いました。

はじめに、森林管理署から管内の概要を含め平成二十一年度事業の大まかな実施状況と流域管理アクションプログラムの活動状況などを報告しました。また、藤里森林センターからはガイド事業の実施状況報告があり、併せて回覧されたガイド事業の様子を撮影した写真に出席者は熱心に見入っていました。

引き続き山本地区振興局からも各事業の実施状況についての報告があり、ハード面での事業の実施とともに、指導普及活動に力を入れていくことが説明されました。

その後、民国連携した活動が米代川流域でも検討されていることやナラ枯れ被害が男鹿市まで北上している状況が報告され、連絡をしっかりと取り合い対応していくことが確認されました。

最後に、四月以降、新年度の事業箇所や指導普及の日程がわかり次第情報交換を行い、今後も地域のために連携して事業を推進していくことを確認し終了しました。



地域林業活性化のために情報交換

～森の仲間の裏話 12～

へえーそうなんだ

イヌワシの兄弟殺し

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長 青山 一郎



イヌワシの親子(35日齢)
2羽育った稀な例

日本最大級の猛禽、イヌワシは厳冬期に4日間隔で2卵を産みます。鳥は普通卵を産み貯めてから抱卵を開始しますが、イヌワシの場合は氷点下に卵をさらすわけにはいかず、初卵を産卵した直後から卵を暖めるため、約一月半後の孵化は当然ながら数日ずれ、2羽の雛の大きさには最初から差があります。

真白い雛は、首も据わっていないのに、つつく、追い回すの兄弟喧嘩の末、大抵2週間ほどで一羽になってしまいます。兄弟殺し(カイニズム)といわれる行動ですが、直接致命傷を与えるというよりは、巣の縁に追いやられて保温されないなど、喧嘩によるアクシデントが主な死因のようです。

ふ化後一月を過ぎ、体つきもガツシリするまで生存すれば、激しい喧嘩も収まり2羽が巣立つこともあります。日本では稀です。

3月、雪山の岩棚で白いヒナが誕生する頃です。仲良く皆巣立って欲しいとも思いますが、厳しい餌事情を乗り切る苦渋の選択であれば、せめて残った若鳥は無事に生き延びて欲しいものです。



還暦を迎える森林官のつぶやき

岩手南部森林管理署

石鳥谷森林事務所 佐藤 正穂

石鳥谷森林事務所は、岩手県のほぼ中央に位置する花巻市（同市は、平成18年1月1日旧花巻市、石鳥谷町、大迫町、東和町が合併し新しく誕生）の約6,000haの国有林を管轄しています。

市の総面積は約90,832haで西部には、奥羽山脈の渓谷沿いに湧き出る花巻温泉郷があり、周辺は県立自然公園に指定され、立ちのぼる湯けむりと深山の緑、目の前を流れる清流が情緒豊かな風景を醸し出しています。北東部には、北上高地の最高峰であり、高山植物の宝庫として

知られる早池峰山（標高1,917m）がそびえ立ち、ハヤチネウスユキソウなどのここでしか見られない花々が、全国から訪れる登山客の目を魅了しています。



早池峰山

また、市の中央部を流れる北上川に注ぎ込む澄んだ河川が、私たちに水辺の恵みをもたらし、奥羽山脈に源を発する葛丸川渓流では、奇岩や滝などの渓谷美と釣りや紅葉、森林浴を楽しむ場として利用されています。厳冬の氷柱（つらら）の太さでその年の米の作柄を占う「たろし滝」の氷柱測定会は冬の風物誌となっています。



「たろし滝」

境界管理については、国有林が奥羽山脈と北上高地に散在しているため、管理面積の割に境界延長が長いことと、国有林内に民有地が点在する孕在^{ようざい}地が非常に多いことから事業実行にかなりの日数を要します。また、境界及び林班界等を熟知している職員が年々減少していることから、今後の管理に支障を来さないように主要な沢や林班界、作業道入口な

どに手作りの標柱を設置して、現在位置が何処か解るように工夫しています。

松くい虫被害は、地球温暖化の影響もあつてか？盛岡市まで北上しています。管内の被害も著しく、被害木の駆除処理の際には、民



ハヤチネウスユキソウ

有林と連携して流域単位で同時に実施し、駆除効果が上がるよう取り組んでいます。

近年、森林吸収源対策としての森林整備事業が年々増加しており、それに伴い、収穫調査や請負事業の監督等も増えてきました。調査や監督の際には、部内の林道、作業道、歩道等の路網を最大限に活用して、迅速かつ効率的に行っていますが、維持管理が必ずしも充分であるとは言えないため少々苦勞することもあります。今後も森林整備事業が増加すると考えられることから、また、国有林野を適切に管理するためにも、その基盤を成す路



森林教室

網の整備が急務かと思われ

ます。森林環境教育は、子供たちの純粋な目を通じて気付き・観察する目を養い新たな発見から生

活力を高め、「着眼点を褒める」ことにより個性を引き出し、長所を延ばす効果と、国有林の良き理解者の裾野を広げる効果、更に、地域との結び付きと理解を深める効果があると考えており、今後もライフワークとして積極的に取り組んでいきたいと思っています。

最後に、国有林マンとして余命一年を迎え、これまでの経験を生かし「有終の美」を飾ると共に、退職後は趣味である登山、山菜採り、庭作り、木工クラフトなどを生かしたスロージブを楽しみたいと考えています。

我が署の 隠れた名所

藤里森林センター

「太良峡」



(見所の概要)

藤里町を流れる藤琴川に沿って、県道二ツ井西目屋線を北上していくと、深く浸食された太良峡が現れます。

藤琴川が深く刻んだ太良峡は、一通の滝、不動岩、仁王岩、位牌岩、犬戻溪谷など、大小さまざまな滝や奇岩・怪岩を樹齢200年以上の天然秋田スギ、ブナ、ミズナラ、トチノキなどが覆い、特に秋の紅葉はこのほか美しい景観を見せてくれます。

また、渓流では岩盤が激流によって削られてできる円形の深いおう穴を見ることができます。



位牌岩



おう穴

交通アクセス

国道7号線を能代市二ツ井より県道317号線（西目屋二ツ井線）を北上すること約40分。



お問い合わせ先

〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3
電話番号：0185-79-1003 FAX：0185-79-1005